

所報



ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣

No.325 大垣市教育総合研究所

学習館 TEL74-6666、FAX74-6697

情報工房 TEL75-7020、FAX77-2520

教職員支援グループ（教育情報）

情報モラル教育にご活用ください！

情報モラル教育について、各学校では外部講師を招いた講話や実際に起きた事例をもとにした指導など様々な形で行っていただいております。今回はトラブル未然防止のための情報モラル教材を紹介します。

☆Netモラル（中学校のみ）

各中学校の共有フォルダ内にある「デジタル教科書」フォルダに「Netモラル」というソフトが入っています。ネットの危険性についてアニメ教材で学べるソフトです。



例えば、「スマホ依存」について学びたい時は上のように、子どもの状況に合わせたアニメ教材を見せることができます。

また、「ネットモラルけんてい」というページもあります。全15レベルで構成されており、1レベル10問の4択式で、所要時間も3分程度で済みます。検定後は右下のように採点が表示され、間違えた問題をクリックすると、その事例のアニメ教材につながり、内容を詳しく学ぶこともできます。

学年・学級の実態に合わせてご活用下さい。



タブレットの不具合 こんなときどうしたらいいの！



1. モニターに映らない！ 共有フォルダに入れない！

■タブレットとクレイドル（タブレットをはめる台）の接点がほこりや油膜等で汚れている可能性があります。



→タブレットとクレイドルの接点の金属部分をブラシなどで丁寧に掃除してみましょう。

■ネットワークがつながっていない可能性があります。

→LANケーブルをクレイドルやHUBから抜き差ししたり、HUBの電源を確認したりしてみましょう。再起動をすれば直ることもあります。

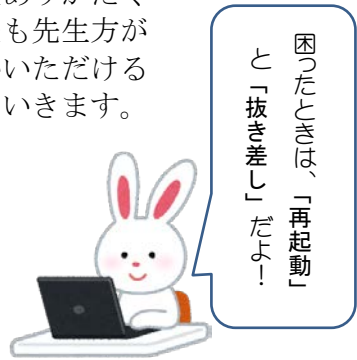
2. タブレットが起動しない！

■タブレットを再起動する必要があります。

→電源ボタンを10秒～15秒ほど長押ししてください。そのあともう一度電源ボタンを押すと再起動します。



デジタル教科書の活用など、タブレットを使っていただく回数は年々増えています。また障害への対応の仕方を身に付けた先生方も多くいらっしゃるようです。今ある機器を上手に活用していただけて大変ありがたく思っております。今後も先生方がICTを快適にお使いいただけるように情報提供をしていきます。また、不具合等が発生した場合はお気軽に教育情報センター（75-7020）までお電話ください。



児童生徒支援グループ（教育相談）

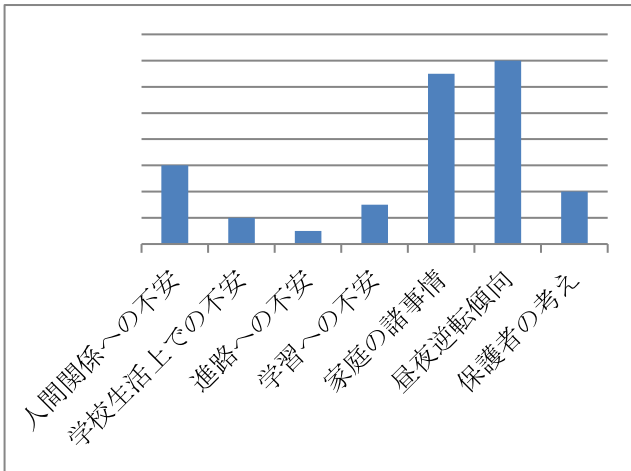
不登校になる要因を分析

不登校の要因について文科省では、9つの項目を挙げています。その中には「無気力」や「不安や情緒の混乱」がありますが、さらにはその要因につながる背景や行為がいくつも考えられます。

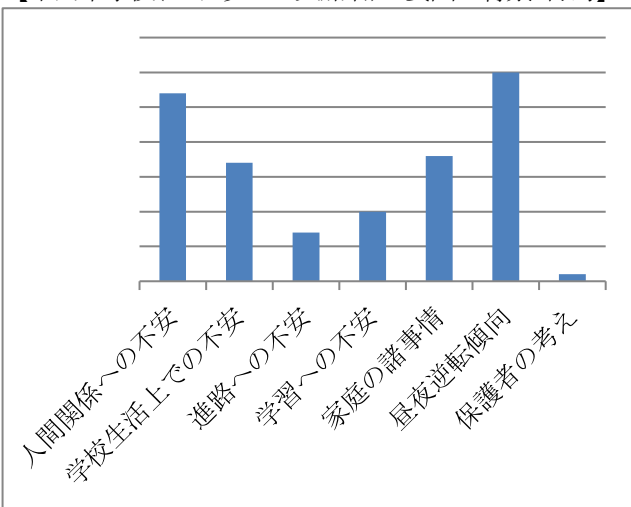
今回、市内小中学校の長期欠席調べ（H30.11月）から、なぜ「無気力」になるのか、「不安」がどこにあるのか、その背景や行為をグラフにまとめてみました。

（11月末までに年間30日以上欠席した児童生徒数の状況から作成しました。）

【市内小学校(30日以上欠席者)の要因の背景・行為】



【市内中学校(30日以上欠席者)の要因の背景・行為】



小中学校とも、生活習慣の乱れ＝昼夜逆転傾向が1位でした。なぜ昼夜逆転しているのでしょうか。オンラインゲームをして、または動画サイトの動画や漫画を見て、深夜まで寝ずに起きているために、朝になっても起きられない状態があると考えられます。また、ゲームや動画に夢中になることで、学校での学習や友達との活動に興味に向かない状態が生まれているとも考えられます。保護者と約束をつくって家族で取り組むことの重要さが改めて浮き彫りになっていると言えます。

2位は人間関係への不安です。特に中学校は友人関係の難しさが挙げられます。些細なことで友人との関係を崩してしまい、その後回復できるように話し合いの場をもったとしても、完全に回復しておらず、尾を引いている状態があります。また、小学校では何気ない行為から「自分は周りの友達に、どのように見られているのか」という不安を抱き、今まで仲の良かった児童とも関わりをもてないという事例もあります。小中学校とも学校の相談室などを使って、教育相談の先生を中心に対応しますが、一度崩れた関係を修復するには、相当な時間がかかるのが現状です。

3位は家庭の諸事情によるものです。仕事で忙しくなかなか関わる時間がもてない保護者や、親子間の関係が悪化してしまったものなどもありました。また、家族状況の変化などにより、経済的に苦しくなったことで、児童生徒の生活環境に物理的・精神的に大きな影響を与えていると考えられる場合もあります。このような場合、保護者を交えたケース会議を開き、今後の対応や方向性を見出して取り組んでいる学校もありました。

積極的に関わり、できること進める

「ピンチがチャンス」という言葉があります。なかなか関わりがもてない保護者に、一緒に考える機会を持つことが大切です。すぐに登校できるようにすることが目的ではありません。現状を少しでも変える手立てが必要です。学校としてできることは何か。保護者としてできることは何か。外部機関にお願いできることは何かなど、一緒に解決の糸口を見つけていく必要があります。

また、要因が分かってもその背景や行為に触れることができず、手詰まりになっている先生方もおみえではないでしょうか。学年や担当の先生方と相談して、次の手を模索できるように、自ら声をかけて進めていくことが大切です。一步踏み込んだ要因を分析してみることから始め、組織を生かして進めていきましょう。

文科省が挙げる要因には「いじめ」もあります。いじめによって不登校になった場合は重大事態としての対応となりますので、児童生徒の関係には今後とも最大限の注意をはらって見届けていきたいです。

不登校「傾向」33万人といわれるなか

通学はしているものの学校に通いたくないと感じることがある「不登校傾向」の中学生が約33万人に上るという新聞記事がありました。これは日本財団が独自に調査したもので、文科省の調査とは違った視点で調べられています。しかし、児童生徒には誰にでも不登校になる可能性はありとらえ、今後の対応を模索していかなければならないと考えます。今後も児童生徒に寄り添い、些細な変化を見逃さず、「居場所と絆」が感じられる学級・学校づくりに努めて参りましょう。

《教育総合研究所にかかわる1・2月の行事》

1月11日（金）ほほえみ教室始業式

18日（金）第2回情報教育主任研修会

29日（火）ふるさと大垣研修会

31日（木）教育実践研究論文予備審査会

2月14日（木）教育実践研究論文本審査会

15日（金）第2回研究所運営委員会

22日（金）第6回教育相談研修会

※第4回これから研修（各校にて実施）